

第4回県立病院機能のあり方検討会（議事概要）

1 会議名称

県立病院機能のあり方検討会

2 開催日時

令和7年10月20日（月）18時00分から19時30分

3 場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局会議室1（オンライン併用）

4 出席者

【委員】

氏 名	職 等
井上 貴裕	千葉大学医学部附属病院 副病院長／ 病院経営管理学研究センター長
小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県医師会 理事
伏見 清秀（座長）	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 教授
本館 教子	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長

【オブザーバー】

氏 名	職 等
阿南 英明	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 理事長
本山 博幸	松田町 町長

5 会議の議題

- (1) 県立5病院の機能及び機能に応じた体制について
（足柄上病院）
- (2) その他

6 会議の結果（概要）

① 地域の基幹病院としての機能

＜委員からの主な意見＞

- ・ 高齢者救急の必要性が増してくるので、そこに力を入れて頑張っていくというのは、とても良い方向である。

- ・ 高齢者救急に取り組む上では、搬送、転院、紹介受診など、小田原市立病院との具体的な機能分化・連携が重要であり、しっかり進めてほしい。
- ・ 高齢者救急をやることは基本的に大変なことなので、例えば総合診療科などを軸に、「何でも学べる」「守備範囲が広く外科的な処置もできる」ということを足柄上病院の売りにして、医師等の確保につなげることもできると思う。
- ・ 地域包括医療病棟を視野に入れるのは妥当。ただ、「地域包括ケア病棟」を転換するのか、「急性期病棟」を転換するのかは丁寧な検討が必要かと思う。
- ・ 生産年齢人口が減っていくなかで、医療従事者が他地域に流れているとすれば、県西地域の医療従事者だけでは賄いきれないので、県西地域でやってみたいと思えるような魅力を提供し、医療従事者が集まるようなブランディングがあった方がよい。

② 必要な体制や規模

＜委員からの主な意見＞

- ・ 病院の運営の効率性という観点はあるが、病床規模については、この地域において、「在宅医療や高齢者施設などの受け皿が十分にあるか」を考慮して検討する必要がある。
- ・ 実稼働200床は妥当で、場合によってはダウンサイズの方角も必要かとは思いますが、機能面で急性期、包括期医療、包括期ケアをどのように配置するか、手術部分の機能をどう考えるかによって、必要病床数は変わってくる。小田原市立病院との手術機能の役割分担の方向性など、病棟機能とあわせて、病棟サイズも検討していかななくてはいけないと思う。
- ・ 人口減少、高齢化が進む中、足柄上病院が人員体制等を工夫しながら、高齢者救急や訪問看護、オンライン診療、総合診療等を行っていくことは、神奈川県がフロントランナーとして走るための大事な要素であり、県もしっかりと力を入れてほしい。足柄上病院と小田原市立病院の役割分担のもと、地域の医療を守っていただきたい。

③ 意見を踏まえた今後の対応

第5回以降の議論に反映する。

7 次回の開催

令和7年11月21日